



ICRP セミナー報告

計量標準普及センター 国際計量室

日時：2023年11月13日（月）13：30～16：50

会場：産総研臨海副都心センター（東京都江東区）別館 11階会議室、オンライン

主催：産業技術総合研究所 計量標準総合センター（NMIJ/AIST）

国際放射線防護委員会（ICRP）セミナーが、2023年11月13日（月）に産業技術総合研究所臨海副都心センターにて開催しました。本セミナーは、ICRPが日本でシンポジウムを開催することにあわせて、2名の海外のICRP委員および国内の放射線防護の専門家を招き、「放射線防護と線量計測」と題して議論が行われました。現地に35名（内外国人2名）、オンラインに122名（内外国人5名）が参加しました。

セミナーは、臼田孝（NMIJ）の挨拶により開会し、司会は松本哲郎（NMIJ）が行いました。

前半は、Dr. Kimberly Applegate（University of Kentucky College of Medicine、ICRP 第3専門委員会委員長）による「ICRP放射線防護制度の見直し：新しい科学、倫理的期待、画像診断と治療への応用」と題したビデオ講演から始まりました。ICRPの紹介に続き、ICRP次期主勧告に向けた活動を解説しました。

古渡意彦氏（国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構（QST））が「緊急被ばく状況における線量評価について」と題し講演しました。緊急被ばくに関連するICRP勧告について紹介するとともに、過去の被ばく事故についてシミュレーションによる被ばく線量評価について解説しました。



開会挨拶：臼田 孝



司会：松本 哲郎



Dr. Kimberly Applegate
ビデオ講演



古渡 意彦氏

休憩を挟み後半は、Dr. Maria Antonia Lopez Ponte (CIEMAT、ICRP 第2専門委員会 幹事) が「ICRP 線量評価システムの現状と将来展望」と題し講演しました。放射線の防護量、新しい実用量やコンピュータファントムの進展などを紹介し、今後の ICRP の線量評価システムについて解説しました。

続いて加藤昌弘 (NMIJ) が「コリメート照射システムによる環境モニタリング線量計の現地校正手法」を講演しました。NMIJ における放射線標準の活動を紹介し、国内のモニタリングポストを校正するコリメート照射システムを解説しました。

最後に、福島国際研究教育機構より 2024 年の ICRP 会議は 11 月 21 日(木)~28 日(木)に福島で開催されるとアナウンスがなされた後、石井順太郎 (NMIJ) の挨拶によりセミナーが閉会しました。

本セミナーを開催するにあたり、ICRP および QST のご協力、また、(株)千代田テクノル、長瀬ランダウア (株)、日本アイソトープ協会、(一社)日本電気計測器工業会、日本レイテック (株)、(株)応用技研から協賛をいただいたことをここに感謝申し上げます。

本セミナーのプログラムおよび講演資料は次の URL をご参照下さい。

https://unit.aist.go.jp/nmij/public/events/seminar/2023/ICRP_seminar/



Dr. Maria Antonia
Lopez Ponte



加藤 昌弘



閉会挨拶：石井 順太郎